

URひと・まち・くらしシンポジウム(UR技術・研究報告会)を 10/27(木)に開催！

「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する～ 社会課題を、超えていく。～」

独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）は、「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する ～社会課題を、超えていく。～」をテーマとしたシンポジウムを、10月27日（木）にイイノホールで開催いたします（当日の様子はライブ配信するとともに、アーカイブ配信を11月2日（水）から11月15日（火）に行う予定です）。

UR都市機構は、「URひと・まち・くらしシンポジウム（UR技術・研究報告会）」を毎年開催し、有識による講演やパネルディスカッションを通じて、社会的課題を踏まえたこれからのまちづくりや、新たな暮らし方などを議論するとともに、UR都市機構が取り組む事業・技術研究の報告を行っています。

令和4年度のシンポジウムでは、「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する」をテーマに、登壇者のみなさまから専門分野の知見をお話いただくとともに、パネルディスカッションを通じて、未来へ向けた「人が輝く“まち”」づくりについて考えるきっかけの場したいと思います。また、同シンポジウムのプログラム内にて、令和5年春にヌーヴェル赤羽台の一面に開館予定の情報発信施設（仮称）の名称を発表いたします。

《シンポジウム開催概要》

- 開催日・場所：会場・ライブ配信 令和4年10月27日（木） イイノホール・WEB
アーカイブ配信 令和4年11月2日（水）～11月15日（火） WEB
- テーマ：「都市の暮らしの歴史を学び、未来を志向する ～社会課題を、超えていく。～」
- 開催プログラム：次ページの通り
- 申込方法：ホームページよりお申し込みください。**※参加・視聴無料**
- ホームページ：<https://www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/2022/>
- 登壇者：
○基調講演：「未来を志向する」をテーマに「Open Smart UR」の取組等近未来住宅について講演



INIAD 東洋大学 学部長（工学博士）/
東京大学名誉教授 **坂村 健 氏**

- パネルディスカッション：「都市の暮らしの歴史を学ぶ」をテーマにディスカッション



株式会社設計組織 ADH 共同代表/
法政大学名誉教授 **渡辺 真理 氏**



東京藝術大学大学院
映像研究科教授 **高山 明 氏**



女優 **菊川 怜 氏**



独立行政法人都市再生機構
副理事長 **田中 伸和 氏**

- 7 司会進行：フリーアナウンサー **木佐 彩子 氏**



お問い合わせは下記へお願いします。

本社 技術・コスト管理部 技術調査課
(電話) 045-650-0675

本社 広報室 報道担当
(電話) 045-650-0887

《シンポジウム開催プログラム（予定）》

司会進行：フリーアナウンサー 木佐 彩子 氏

■11：00 開場

■12：00～12：10 開会あいさつ

■12：10～13：05 基調講演

INIAD 東洋大学 学部長（工学博士）/東京大学名誉教授 坂村 健 氏

「未来を志向する」をテーマに、ニューヴェル赤羽台保存街区で実施している、2030年の住まいにおけるHaaSを模索する「Open Smart UR」の取組等近未来住宅についてお話しいただきます。

■13：20～14：20 パネルディスカッション

株式会社設計組織 ADH 共同代表/法政大学名誉教授 渡辺 真理 氏

東京藝術大学大学院映像研究科教授 高山 明 氏

他

「都市の暮らしの歴史を学ぶ」をテーマに赤羽をモデルケースにしたまちづくりの歴史等、有識者の皆さまにお話しいただきます。

■14：20～14：30 情報発信施設（仮称）について

■14：45～15：35 UR都市機構 事業報告（10分×5）

報告課題	報告部門
『Green Bind!』みどりが束ねるまちと生活 ～草加松原団地全面建替事業の完了について～	賃貸住宅
バスターミナル東京八重洲の開業 ～東京駅前におけるバスターミナル整備について～	都市再生
明日から何ができるか考えてみよう ～東日本大震災からの復興に向けて～	災害復興
自然災害からの復旧工事における新たな体制について ～技術系職員不足で悩む地方自治体に有用なマネジメント手法～	
日本の都市開発ノウハウを世界へ ～TOD（公共交通指向型開発）の国内開発事例の海外展開とこれからの都市開発について～	海外展開支援

■15：35～16：15 UR都市機構 研究報告（10分×4）

報告課題
20年超に及ぶ長期実験の実施 ～八王子集合住宅歴史館での段差付きボイドスラブの長期たわみに関する実証実験～
都市再生事業における工事中交通マネジメントの重要性 ～渋谷やうめきた等のターミナル駅周辺での事例を通して～
UR賃貸住宅における「懐かしいけど新しい、魅力的な遊び場」づくり ～子供の健全な発達やコミュニティ形成に貢献する屋外空間を目指して～
UR都市機構におけるスマート技術活用に向けた取組み ～団地での自動配送ロボット等の実証実験について～

■16：15～16：20 閉会あいさつ

- ※本シンポジウムは新型コロナウイルス感染症の影響により、開催方法等が一部変更となる可能性がございます。
- ※内容は変更の可能性がありますのでご了承ください。
- ※本シンポジウムは都市計画CPD認定を受けております。
- ※ 認定可能団体や申請方法等につきましては、本シンポジウムのホームページ及び建設系CPD協議会のホームページ等でご確認ください。
- ※本シンポジウムは国土交通省の住生活月間（10月）の取組みの一環として開催するものです。

UR都市機構の歩みは戦後の住宅不足解消に端を発しています。1955年から様々なステークホルダーとともに、時代時代の多様性に即し、安全・安心・快適なまちづくり・くらしづくりを通して、「人が輝く“まち”」の実現に貢献してまいりました。そしてこれからも、変化する社会課題に挑戦し続けることで皆さまにお応えし、「人が輝く“まち”」づくりに不可欠な存在でありたいと考えております。これまで培ってきた持続可能なまちづくりのノウハウをいかし、都市再生事業・賃貸住宅事業・災害復興支援・海外展開支援に全力で取り組んでまいります。

<https://www.ur-net.go.jp/>

